



「教室マルトリートメント」って何？

今回は、前号の内容に関連して「教室マルトリートメント」を取り上げます。マルトリートメントとは、虐待とまでは言えないものも含め、主に親子関係において、子どもの健全な発育を妨げる**不適切な養育・かかわり**を指すものです。大人の側に加害の意図がない、子どもの将来を案じて良かれと思って行うことであっても、それが子どもに対して不適切な行為であればマルトリートメントと言えます。 < mal (悪い) + treatment (扱い) >

頭に「教室」を付した「教室マルトリートメント」は、同名の本の著者である川上康則氏（東京都立矢口特別支援学校 主任教諭）による造語です。学校においても、違法行為とまでは言えないものの、**子どもの心を傷付け、成長を阻害する不適切な指導**を防ぐために教師が意識すべきこととして問題提起しています。例えば、次のような行為を挙げています。

◆ ネグレクトに類似した指導

⇒ 励ましや称賛をしない / 特定の子の指名を避ける / 支援が必要な子の合理的配慮を行わない / 取り組むべき学級の課題を放置 / 支援が必要な子を支援員等に丸投げ

◆ 心理的虐待に類似した指導

⇒ 威圧的・高圧的な指導 / 力で押さえる指導 / 子どもが自信をなくすような強い叱責 / 子ども的人格を尊重しない言動 / 子どもの主体的な行動を妨げる指導

川上氏が特に指摘しているのが、以下のようないわゆる**毒語**の問題です。

- ・ 質問形式で問い詰める…「何回言われたら分かるの?」「ねえ、何やってるの?」
- ・ 本当の意図を語らず裏を読ませる…「やる気がないんだったら、もうやらなくていいから」(やりなさい)、「勝手にすれば」(勝手は許しません)
- ・ 脅しで動かそうとする…「早くしないと〇〇させないから」「もうみんなとは〇〇させられない」
- ・ トラの威を借る…「お母さんに言うよ」「校長先生に叱ってもらうから」
- ・ 下学年の子と比較する…「そんな子は1年生からやり直してください」「保育園に戻りたい?」
- ・ 教師に責任がないことを強調…「ダメって言ったよね」「さっき約束したばかりだよ」
- ・ 見捨てる…「じゃあ、もういい」「さよなら」「バイバーイ」



これらの行為や毒語は、子どもの自尊感情を低下させ、「どうせ自分なんか…」という無力感（**学習性無力感**）をもたらします。また、マルトリートメントの頻度や強度の増加は、被虐待児に見られるような、脳の一部の委縮や肥大に繋がるとの研究報告もあります。

校内に教室マルトリートメントが存在していないか、**チェックに役立ちそうな視点**を、川上氏の著書の小見出しの中から、いくつかピックアップしてみます。

「静かでおとなしいクラス」で、何が起きている？ / 個々の教師の主観による「どうしても譲れないライン」の危うさ / 教室に吹かせている教師自身の「風」を感じ取る / 「風」が続くと「圧」になる / こじらせ教師が醸し出す独特の雰囲気 ……

また本書では、高圧的態度で発言力の強い教師が**職員室に吹かせている「風」**が、特に同学年所属の若い教師にとっての「**圧**」となり、子どもへの指導にネガティブな影響が及び易いことにも警鐘を鳴らしています。

引用文献 川上康則「教室マルトリートメント」
東洋館出版社 2022年

担当 学校生活適応支援アドバイザー（飯山・大瀧）
TEL 639-4392

※ 教育センター資料室に配架しています。ぜひ一読ください。